

2019年11月8~7日

高知県知事選挙

高知新聞 2019. 11. 08 08:29

## 2019高知県知事選 新人一騎打ち確定 対抗心強く舌戦

7日告示された尾崎正直知事の後任を選ぶ高知県知事選は、同日午後5時で立候補の受け付けが締め切られた。届け出順に、いずれも無所属新人で、共産党高知県常任委員の松本顕治氏(35)＝立憲民主党高知県連、国民民主党高知県連、共産党、社民党推薦＝と元総務省総括審議官の浜田省司氏(56)＝自民党、公明党推薦＝の一騎打ちが確定した。

尾崎知事から後継候補として指名された浜田氏を国政与党が支援。対抗する野党勢が松本氏を統一候補として擁立し、与野党対決の構図となっている。

2陣営はそれぞれ高知市内の選挙事務所近くで第一声を上げた後、街頭演説などでアピールした。

「誰一人取り残さない県政に」と訴える松本氏は、高知市から県東部にかけて遊説。「共感と前進の県政」を掲げる浜田氏は高知市内を回った後、個人演説会を開いた。

県選挙管理委員会は10日、2候補の公約や政策を記載した選挙公報を県内34市町村選管に発送。順次、各家庭に配布される。

政見放送は13日から始まり、テレビはRKC高知放送、テレビ高知、高知さんさんテレビ、NHKの4局で計5回、ラジオはRKC高知放送、NHKの2局で計3回行われる予定。

(大野泰士)

9日の候補者

【松本候補】奈半利町、田野町、北川村、馬路村、安田町、安芸市

【浜田候補】黒潮町、四万十市、土佐清水市...

しんぶん赤旗 2019年11月8日(金)

誰一人取り残さない県政へ 高知県知事選 松本候補が第一声



(写真) 告示第一

声で声援に応える(右手前から)広田、松本、武内の3氏＝7日、高知市

初めて市民と野党の共闘でたたかわれる高知県知事選が7日告示(24日投票)されました。野党統一候補として挑む松本けんじ候補(35)＝無所属新＝は高知市内の出発式で第一

声を上げ、「県民の立場で国にももの申し、変えていく。誰一人取り残さない県政へ、ここでいっしょに生きよう」と呼びかけました。(関連)

国政転出を狙う尾崎正直知事(51)が後継指名し、自民、公明両党が推薦する元中央官僚の浜田省司氏(56)＝無所属新＝との一騎打ち。7月の参院選で統一候補を務めた松本氏が挑戦します。

今回、国政選挙での野党共闘が深化し、初めて設けられた選対の本部長に、広田一衆院議員(高知2区)、副本部長に5野党の県代表が就任。さらに県内全5ブロックの共闘体制も発足しています。

広田氏は出発式で、各地の野党共闘の深化を強調し「地方から国を変える。自由民権発祥の地・高知から声を上げ、国言いなりの地方自治を変えていこう」と訴えました。

国政6野党・会派の党首の激励メッセージが紹介されました。

浜田陣営の出陣式で自民党の下村博文選対委員長は、安倍政権での官房副長官当時の秘書官が尾崎氏だったとし、浜田候補についても「永田町、霞が関でみんな知っている」など政権との直結を強調しました。

しんぶん赤旗 2019年11月8日(金)

県民目線で政治転換 高知県知事選 松本候補の第一声(要旨)



(写真) 第一声で訴える松本候補

＝7日、高知市

いよいよ、この日がやってきました。いろいろな方に支えられ、ここまで来ることができました。あとは一気にみんなで走り抜け、この高知をよりよく変えていくために、どうか最後まで力を貸してください。(大きな拍手)

人口減少、過疎化という課題は、そこに暮らす人の責任ではありません。そして、高知県だけの努力で解決できる問題でもありません。

尾崎県政も1次産業に光を当てた産業振興、きめ細やかな防災・減災対策をしてきましたが、人口減少に歯止めをかけられません。

この課題の根っこに、国の政治があります。尾崎さん、県民のみなさんが頑張ってきた裏側で、国は農産物の輸入を自由

化し、消費税増税を押し付ける。県民の努力を国の政治が破壊してきました。

だからこそ、私は尾崎県政のいい部分を引き継ぎ、国に対しておかしいことはおかしいと県民の立場でもの申し、変えていく。その展望を持つことが課題を突破する最大のカギだと思います。(拍手)

国の政治を変える努力と同時に、高知県が持つ豊かな可能性を広げたい。高知の最大の魅力は豊かな自然環境です。私も18歳で福岡から高知に引っ越し、この場所で暮らし続けようと思ったのは、この自然環境と一緒に暮らす多様な人たち、その中で一緒に生きたいと思ったからです。

この豊かな自然環境を最大限に生かす農林漁業で暮らしが営めるようになる。再生可能エネルギーが産業になる。最大の雇用の場である医療、介護、保育の分野で働く人が安心して暮らし続けられる。そうなれば人の営み、生業(なりわい)が生まれ、生き続けられる場所が県全体に広がります。「誰一人取り残さない」県政と一緒につくりたい。(拍手)

「誰一人取り残さない」県政は学校現場にこそ必要です。点数では測れない生きるための可能性や力、学力も、ここに居ていいんだと思える安心できる学校があってこそ伸びる。県版の学力テストを廃止し、先生の数を増やし、先生が子どものそばにいられる時間を増やしたい。(拍手)

みなさんの知恵と力こそが高知県をより良くしていく原動力です。どうかあなたの力を貸してください。「頑張れー」の声、大きな拍手)

しんぶん赤旗 2019年11月8日(金)

## きょうの潮流

たたかいに臨む彼の胸に去来したでしょうか。「海 隔てつわれら腕(かいな) 結びゆく/いざ戦はんいざ/奮い立ていざ」。高知がはぐくんだ反戦詩人、楨村浩(まきむらこう)の「間島パルチザンの歌」のエピローグです▼自身が数年前に舞台上で演じた郷土の先人。戦前の暗闇のなかで民の苦難に心を寄せ、変革の立場から表現した楨村の詩。その思いは高知知事選に挑んでいる松本けんじさんの内に息づいています▼劇で培った張りのある声で聞く人の心にひびく演説。そこには2度の国政選挙で県内を回りながら耳にしてきた苦しみや願いが込められています。過疎化がすすむ集落、立ちゆかない農林水産業、教育や子育て、介護や福祉の切実さ…。地方の暮らしを守るため国に物申す決意は、一つ一つの声に裏付けられています▼7日の第一声。野党や市民の会の代表がずらりと肩を並べ、力を合わせてがんばり抜くことを誓いました。この間の選挙のなかで共闘は進化し、親しみを込めて呼ばれる“マツケン”は、まともな象徴になっています▼学生の頃から相手への想像力をはたらかせ、聞く力を養ってきたという35歳の青年。現状を嘆き、生きる展望を失いかけている周りの若者たちを励ましてもきました▼未来が其(そ)の胸中に在る者、之(これ)を青年と云(い)ふ一。同じく郷土の自由民権家、植木枝盛はこんな言葉を残しています。みんなの高知県をと

もにつくっていかうと呼びかける若い情熱は心を一つに。「ここでいっしょに生きよう だれ一人取り残さない県政へ」

岩手日報 2019. 11. 07

## 高知県知事選告示、2新人届け出 埼玉、岩手に続き与野党対決

任期満了に伴う高知県知事選が7日告示され、共産党県常任委員松本顕治氏(35)＝共産、社民推薦＝と、元総務省総括審議官浜田省司氏(56)＝自民、公明推薦＝の無所属2新人が立候補を届け出た。立憲民主、国民民主両党の県連も松本氏を推薦し、埼玉、岩手両県知事選に続き、与野党が対決する。24日に投開票される。

高知県知事選は2011、15年が無投票で、選挙戦は07年以来12年ぶり。3期12年務めた現職尾崎正直氏は退任し、次期衆院選高知2区で自民党の公認を得て出馬したい考え。知事選では浜田氏を後継指名しており、尾崎県政を継続するかどうかが主な争点となる。